

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】伝統ある普通科高校として、以下の学校をめざす。

- ・希望に応じた進路実現をサポートする学校
- ・次代を担う志高くたくましい人材を育てる学校
- ・地域に信頼され誇りとされる学校

【育てる力】授業・学校行事・部活動・地域連携等を通じて、以下の力を育む。

- ・確かな学力とキャリアデザイン形成力
- ・校訓「自律・敬愛・共創」 — 自ら規律を重んじ他者を敬愛しながら、共働して価値あるものを創り出す力をつける —
- ・知徳体備わった豊かな人間性

2 中期的目標

1 学力向上と進路実現

- (1) 新学習指導要領と本校の実情や将来像をふまえ、「確かな学力」の定着と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組みを図る。
- ア 各教科の授業改善について「生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり」を共通目標として推進し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成していくことをめざす。
- イ 校内・校外研修や教員の授業相互見学、研究授業の活性化などを通して、授業改善の取組みを進め、生徒の授業充実度や満足感を向上させる。
- ウ 全教室に設置された電子黒板とホワイトボードの活用と GIGA スクール構想を踏まえた ICT を効果的に取り入れ、授業改善の推進を図る。
- (2) グローバル化や情報化社会に向けた国際的な視野をもとに英語コミュニケーション力を身につける。
- ア 「学習基礎」(毎朝のモジュール型学習：通称朝学)において、モジュメディアステーション(一斉配信機能付き電子黒板)を活用して英語ディクテーション学習で「聴き・書き取る英語力」と「集中力」を身につける。
- イ 「英語多読・多聴ステーション」をさらに充実し発展させる。
- ウ 英語力の習得に特化した校内語学研修の充実やスピーキングテストを実施することで、4技能を統合した発信する力を育成する。
- (3) 生徒の進路希望を実現させる。
- ア 進路目標に応じたコース(I型文系・II型理系)の指導を強化し、入試結果の向上をめざす。
- イ ガイダンス機能、情報提供を増加させ、進路実現につなげる。
- *中堅・難関大学現役合格者数が、7クラス令和5年度190名、7クラス令和6年度200名、7クラス令和7年度220名。(8クラス令和2年度171名、8クラス令和3年度151名、8クラス令和4年度182名)※令和2年度より中堅大の基準を変更し、合格実人数で表記

2 総合的な探究の時間の推進

- (1) 校訓「自律・敬愛・共創」の志を持ったよき社会人として、多様な他者の考え方や生き方を相互に認め合いながら、新たな価値あるものを共に創り上げていく資質と能力を養うため、総合的な探究の時間を推進する。
- ア 総合探究推進委員会は、分掌、委員会、教科、教員個人の実践やスキルの中から多くの効果的な情報を得て、より充実した取組みになるよう企画立案・実践していくことで「総合的な探究の時間」を推進していく。
- イ キャリア教育、ボランティア活動、ライフプラン作成、SDGs課題解決学習等、各分野での実践を検証し、充実・発展させていく。
- ウ 人権教育、道徳教育を中心に、命の大切さを学び、自他を尊重する人権意識及び他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性を養い、一人ひとりが将来に対する夢や希望を持ち、自らの人生や未来を切り拓いていく力を育む。
- (2) 国際交流活動の充実を図る。
- ア 外部関係機関と連携し、海外の高校生等との交流を通じて国際理解を深め、コミュニケーション能力を高める。
- イ 1～2学年においてイングリッシュデイ(外国人講師のグループ別コミュニケーション・プレゼン研修)を実施する。
- (3) 読書活動の推進を図る。
- 図書館運営協議会を中心に読書活動の推進を図る。

3 府民に信頼される魅力ある学校づくり

- (1) 生徒指導・支援体制の確立(「自律・敬愛・共創」の志を育む)
- ア 支援相談委員会が、「高校生活支援カード」を活用して、支援を必要とする生徒の実態把握と個別の支援策を検討し、「個別の支援計画」を作成する。また、支援方法の研修を行い、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進を図る。
- イ 自治会活動の充実を図り、体育大会・文化祭等の諸行事について、生徒の主体性と自治運営力を高めて活性させ、充実感を育むとともに、地域や保護者との交流を通して、お互いの信頼関係を深める。
- ウ 生徒指導・支援のあらゆる場面において、生徒の規範意識やマナー意識、あいさつ等、自他を思いやる心を醸成する。また、遅刻数の減少、事故等の防止に重点を置く。
- エ 部活動の活性化を推進し、バランスのとれた心身の成長と健全な人間関係を形成する力の育成を図る。
- (2) 学校経営体制の強化
- ア 学校経営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。
- イ 教員の「やる気」を高め、より主体的に動くことができる教員集団を育成し、生徒の満足感につなげる。
- ウ 働き方改革の取組みとして業務の効率化を促進し、意識の改善を図る。
- エ 保護者との連携を図る。
- (3) 開かれた学校づくり
- ア より開かれた学校をめざし、積極的な情報提供や広報活動、ボランティア活動などを通して地域交流を展開していく。
- イ 令和4年の創立百周年記念事業の成果をもとに、引き続き生徒・PTA・教職員・同窓会・地域等のオール阿倍野態勢で、これからのに向けての取組みを進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【変更点・概要】</p> <p>GIGAスクール構想の実現に向けて1人1台端末の活用状況を検証するため、教員アンケート項目に追加した。結果は、課題配信や授業の振り返りやまとめ学習に活用するなど70%ほどの</p>	<p>【第1回】7月3日</p> <p>■今年度の学校経営計画について</p> <p>・主体的な取り組みの育成については、阿倍野高校バージョンの「ル</p>

府立阿倍野高等学校

教員から「授業やアンケートで使用している。」という肯定的回答を得ているが、活用だけでなく GIGA スクール構想の位置づけとしては、より高い教育効果を生み出すため、情報委員会の設置も検討し、活用の見直しや改善を進める。

学校運営については、この3年間、生徒・保護者ともに50%以上の項目で肯定率が上がり、安定して進めていると考えられる。中でも「学校が楽しい」「入学させて良かった」肯定値は、生徒・保護者ともに昨年並みの高い数値となった。また「子どもは学校での授業はわかりやすいと言っている」や「学校の施設・設備は清掃が行き届き学習環境としてふさわしい」などの項目で保護者の肯定値がとくに上昇している。各教員が生徒の実態を踏まえて指導方法の工夫や改善に努めてきたことが生徒の満足を生み、保護者に伝わっていると考えられる。

学習環境の改善については、力を入れてきた課題で、コロナ禍が明け、保護者に参加してもらう機会が増え、実際に見ていただいた結果が評価されたと考えている。

学習指導での評価は、概ね肯定率が上がっている中で「放課後や夏休みに、補習・講習を十分行っている」項目が生徒・保護者とも肯定率が少し下がっている。この点は教職員も組織的に補習・講習を十分行っていない。と認識しており、現在の担任団中心の補習体制から、進路指導部や教科等の組織的な補習体制へ移行するなど、学校全体的の取り組みを検討する。

【学習指導】

「生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり」について、教員側と生徒側の意識に少し隔たりがあるようだが、生徒の肯定率も昨年度より4ポイント上昇し、80%近くなった。今後も継続していくことで、その隔たりは改善されると考えている。

「授業の分かりやすさ」について、生徒アンケートでは肯定率が80%以上を維持し、少しずつだが上がっている。保護者アンケートでも否定的意見が20%弱まで下がった。これは、各教員が生徒の実態を踏まえて授業方法の改善に努めたことが評価につながったと思われる。

また、生徒自身も授業・学習に前向きに取り組んでいるからこそその評価とも考えている。

「ICT 機器等活用」については、教職員の活用率は高く、生徒の肯定率も80%を常に超え評価を得ている。中でも1人1台端末活用は、生徒肯定率が昨年度より23ポイントと大きく伸び90%を超えるようになり、今後も維持できるようにICT活用の向上に努める。

【生徒指導】

生徒指導については、生徒・保護者ともに肯定率70%以上で、年々ポイントも上がっているの、一定の理解は得ていると考えられる。

「人権教育に関すること」については、生徒の肯定率が大きく伸び、80%を超えるまでになった。保護者の肯定率も少しずつ上がっており、「わからない（保留）」の数値が下がっているの、このままの対応を継続したい。

「いじめについての指導・対応」については、生徒の肯定率が8割近くまで上がっている。保護者は「わからない（保留）」の数値が半数以上と高くなり、年々、否定率は下がっているの、評価できるレベルではないが、否定するレベルにもない状況と考えられる。今後も改善を検討し、対応していきたい。

「学校行事」については、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、保護者等の参加や活動時間の延長など、コロナ禍以前の状態に近い形式で実施した。その結果「学校行事」に関する肯定値は、保護者・生徒ともに90%近くになっている。

【進路指導】

以前から課題としていた「進路実現に向けて、学校から適切な情報提供」は、保護者の肯定率が80%を超え継続できている。また、「進路実現に向けての情報提供」や「将来の進路や生き方について考える機会」など、生徒への直接的な働きかけは、生徒の肯定率も年々上昇し、9割近くなった。資料提供だけでなく講演会や大学見学など、体験型の働きかけを継続的に実施していることが、生徒に好意的な受け止めと考えられ、今後も継続的に実施していきたい。

「放課後の補習や長期休業期間中の講習」については、教員肯定率は80%、生徒肯定率が70%を超えるが、保護者肯定率が50%ほどである。保護者と教員との間に、意識のズレが出ている可能性を危惧する。特に、保護者は否定率も30%弱あり今後の大きな課題であるので、次年度に向けては、補習参加の呼びかけや案内通知なども積極的に保護者へも連絡を行い、理解を深めたい。今後もきめ細かな対応を継続することで、「ワンランク上」の進路目標を実現させるサポートをめざす。同時に生徒自身が自ら進路を切り開く力をつけさせるよう、指導の確立を進める。

【学校経営等】

「学校の施設・設備」に対する意見について真摯に受け止め、令和3度より対応を重ねてきた。その結果、肯定率は昨年度に続き上昇し、保護者においては73%（生徒は58%）まで回復することができた。今後もこの数値が維持できるように改修・改善を継続していきたい。

「PTAの活動」については、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、コロナ禍以前の取り組みに戻してみたが、「PTA活動に参加することがある」項目は、肯定率は4%となった。今年だけの結果で判断することは難しいが、共働き世帯の割合が増える社会状況の中で、従来そのまま続いているような活動を継続して行くべきなのかを検討する必要がある。

【交流活動】

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染症法上が5類感染症となり、海外語学研修をはじめ、対面での多くの交流が実施できた。

令和3年度より韓国スンチョンポクソン高校とはWeb上でオンライン交流を実施していたが、今年度は直接来校してもらい、対面形式での国際交流が実現できた。

また、以前から親交のあったインドネシアのダルマユダ高校とも、対面形式での国際交流を実現できた。

それとともに家庭科や部活動などにおける地域交流活動についても、大きく再開した結果、

「ブリック評価」に対して、結果を報告してほしいという意見があった。

・イングリッシュデイの実実施回数が1回減ったことに対して、理由を求める質問があり、1回目の内容と2回目の内容が大きく変わらないため、今年度は1回に絞った開催に変更したと回答を行った。

・地域連携、地域貢献の一つとして、文の里駅のエレベーターを利用した全盲の方が、登校時に高架下で困っていたら、横断歩道を安全に安心して渡れるように全盲用のスイッチを押すなど、声掛けをして欲しいという意見があった。

【第2回】11月1日

・授業アンケートの「生徒取組」の項目で、よい結果が出ていることに対して、先生方の頑張っている姿や熱意を、生徒に紹介する場面はあるのかという質問があった。また、生徒に先生たちが頑張っている姿や熱意を伝えると、生徒たちもより頑張ってくれると思われるという意見をいただいた。

・ダンス部が全国大会に出場したことに対して、顧問は専門の先生がいるのかという質問があり、教頭よりOBが指導していると回答を行った。また、中学校の方でも、ダンスが人気となっているので、引き続き成果をだして欲しい。という意見をいただいた。

・1年生が夏休みに中学校に訪問していることに対して質問があり、校長より阿倍野高校の近況報告や阿倍野高校のよい点を母校の先生に伝えている取り組みであると説明した。

また、この取り組みと同様に、阿倍野高校の卒業生が在校生に対して、大学受験のこと、高校生活のことなど、話をする機会があれば、在校生に良い影響が出てくると思われるので実施してほしいという意見をいただいた。よって、来年度は4年制大学進学者からの受験体験や大学生活、現在の学習紹介などを聞く機会を検討する。

【第3回】1月31日

・令和5年度学校経営計画の評価及び令和6年度学校経営計画の計画について報告を行う。ICT活用により働き方改革につながっているかと質問があり、業務改善の点では、つながっている実感はなく、授業展開の工夫やバリエーションには、つながっていると感じると回答。また、働き方改革について何か改善点はあるか。という質問があり、組織、体制の見直し、工夫を考えている。と回答を行った。

・第2回授業アンケート及び自己診断アンケートについて、結果と報告の説明を行った。小学校や中学校では地域と連携した防災訓練などがあるが、防災という観点の方策について質問があり、避難所開設や災害時の対応に向けて、事前の教員の役割分担などイメージを考えておきたい。と説明を行った。続けて、「苗代小学校では王子地域の防災訓練を日曜に学校で行い、地域と連携して行うという実践をしている。」という事例紹介があった。他にも、「地域は高校との連携の在り方について、難しく感じている。少しでもお互い顔を見れた関係になり、防災などをきっかけに地域との関係ができればよい。」との意見をいただいた。また、PTAとしては学校と保護者のパイプ役としての役割があるので、防災や防犯などに関しても、今後のより良い在り方を考えていきたい。保護者の参加できるPTA行事についても、次年度より保護者のニーズに応えられるように、取り組んでいきたい。との意見をいただいた。

・教務部より本年度の取り組みについて説明、進路指導部より年内入試について結果と今後の展望について報告、生徒指導部より遅刻数や懲戒件数、今後の指導の改善点等について報告、説明があった。

生徒の肯定率が8ポイントも上昇した。今後もこのような交流の場を提供し、生徒のこころの育成や進路設計の役に立つように実施して進めたい。	
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 学力向上と進路実現	(1)「確かな学力」の定着と授業改善 ア 「生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり」	ア・学習支援室と各教科が連携して、授業アンケート、学校教育自己診断、相互授業見学等に取り組み、結果を総合的に分析し、課題を共有し、エビデンスに基づいた授業改善を進める。 ・ペアワーク、グループワークを積極的、組織的に活用する。 ・土曜学習会、補習、講習等学習支援の取組みを充実させる。	ア・授業アンケート、学校教育自己診断（以下、「アンケート」と記載）による生徒満足度、「わかりやすい授業・教え方に工夫」昨年度以上。 [生徒満足度 83%] [教員の ICT 活用率 78%] ・管理職授業見学時、50%実施目標。 ・「土曜学習会」参加者数平均 50 名以上。 [平均 57 名]	ア・授業アンケートや学校教育自己診断（以下「アンケート」と記載）「わかりやすい授業・教え方に工夫」 生徒満足度 84%(○) ICT 活用率 91%(◎) ・授業見学時にグループ・ペアワークなど積極的に活用 74%(○) ・「土曜学習会」参加者数平均 82 名(○)
	イ 授業改善	イ・校内・校外研修や相互授業見学を通じて授業改善に努める。 ・観点別評価、教科横断的学習等の研究を図り、授業向上グループを設置し、成果物としてルーブリックを作成する。	イ・アンケート（教員）の肯定「生徒の実態を踏まえ、指導方法の工夫・改善に努めている」 80%以上 [84%] ・会議、研修等を 10 回以上実施する。 [新規]	イ・アンケート（教員）「生徒の実態を踏まえ、指導方法の工夫・改善に努めている」 88%(○) ・授業力改善グループ実施 会議 7 回、研修会 4 回実施 (○) 成果物のルーブリック完成
	ウ ICT を活用した授業実践	ウ・生徒 1 人 1 台の端末の導入によるオンライン学習等に向けた取り組みを推進する。	ウ・ICTによる一斉学習、個別学習、協働学習の実践研修を、各学期に 1 回以上行う。 ・アンケート教職員 ICT 機器をよく活用している 80%をめざす。 [78%]	ウ・教員 ICT 研修実施 3 回(○) アンケート（教員）「ICT 機器をよく活用している」 85%(◎)
	(2) 英語コミュニケーション力 ア 朝学習	ア「学習基礎」（朝学）英語ディクテーション学習を中心に、年間計画をたて、「みる」「きく」等の感覚機能を活性化し、毎日の脳トレーニングを実施する。	ア・一斉配信英語教材の研究と作成。授業アンケートによる取り組み意識の肯定を 80%以上維持。 [87%]	ア・アンケート 肯定率 86%(○)
	ウ 発信する力	ウ英語 4 技能のうち「話す」力の向上をめざした外国人講師によるイングリッシュデイ研修等、特別な取組みを計画して実施する。	ウ・全生徒対象のスピーキングテストを年 4 回以上実施。 [4 回] ・1～2 年時にイングリッシュデイ研修実施。	ウ・スピーキングテスト 4 回(○) ・イングリッシュデイ実施 1 回(○) 生徒満足度は 100%であった
	(3) 進路実現 ア 進路指導	ア・「進学講習」「学習キャンペーン」等を推進し、家庭学習時間を増加することで進路実現につなげる。 ・進路指導部と連携し阿倍高塾の授業内容の充実と映像教材の指導充実を図る。 ・入学時の学力の維持・向上に努めることを目標として、学力生活実態調査等を用い、進路実現を図る。	ア・平日の家庭学習時間 60 分以上の生徒の総数が学年総数の過半数を占めること。 [41%] ・阿倍高塾の生徒満足度 60%の維持。 ・中堅・難関大学合格者数 190 名。 [182 名]	ア・平日の家庭学習時間 60 分以上 40%(△) 昨年同様となり継続指導を行う ・阿倍高塾 生徒満足度 90%(◎) ・中堅・難関大学合格者数 148 名(△) 昨年度に比べクラス減で実数は減ったが、割合は同水準である。継続して指導を続ける。
イ 情報提供	イ・進路指導部からの情報発信を増加し、進路に向けての生徒の意識の向上と同時に保護者の理解や協力を得る。 ・学習ガイダンス、進路ガイダンス機能を充実させる。(選択科目説明会・進路別説明会・学問別説明会等の充実)	イ・進路指導部からの保護者、生徒へのメール発信 60 件 [80 件] ・アンケート（保護者）「進路指導・情報提供に関する肯定値」80%の維持向上。 [82%]	イ・進路指導部から保護者・生徒へのメール発信 89 件(○) ・アンケート（保護者）「進路指導・情報提供に関する肯定値」 84%(○)	
2 総合的な探究の時間の推進	(1)志学、人権・道徳教育、総合学習（総合探究）を総合的に行う実施計画推進 ア 総合的な探求	ア・志学、人権・道徳、総合探究の各委員会で、学年と連携して指導内容を充実する。 ・総合探究でキャリア教育の取組みや SDGs の学習を計画的に推進する。	ア 系統立てたキャリア学習を計画する。 ・アンケート（教員）肯定値「キャリア教育」80%以上。 [100%] ・月 1 回以上、生徒間の議論を組み込んだ総合探究を実施する。	ア ・アンケート（教員）「キャリア教育」肯定値 88%(○) ・SDGs への取組みが計画的に実施できた。肯定値 100%(○)

府立阿倍野高等学校

	<p>(2) 国際交流活動</p> <p>(3) 読書活動の推進</p>	<p>イ・これまでの取組み検証を踏まえて、引き続き、芸術鑑賞、人権講演会、美化活動、挨拶キャンペーンなどを企画し、その充実を図る。</p> <p>ウ・「花いっぱいの学校・清掃の行きとどいた学校」を目標に、『阿倍高を美しくする会』の支援とともに周辺地域のボランティア美化活動をより推進する。</p> <p>エ・人権教育、道徳教育推進計画を作成する。</p> <p>ア・国際交流委員会の活性化を図り、外国人短期研修やWEB交流等の機会を探る。</p> <p>ア・図書館を中心に読書・学習活動の推進を図り、読書習慣を身につける取組みを実施するとともにビブリオバトルの推進を図る。</p>	<p>イ・アンケート(生徒)「豊かな心や生き方について考える機会がある」肯定値80%をめざす。 [79%]</p> <p>ウ・アンケート(生徒)「授業にふさわしい環境」肯定値80%以上。 [82%] ・生徒自治会、同窓会、保護者、教職員が連携して年間5回の美化活動の取組みを推進する。 [5回]</p> <p>エ・拉致被害教材「めぐみ」を活用した人権教育を行う。</p> <p>ア・国際交流の実施回数を増加。 [3回]</p> <p>ア・図書館だよりの定期的発行を維持する。 [5回] ・年間貸出し冊数1200冊以上をめざす。 [1172冊]</p>	<p>イ・アンケート(生徒)「豊かな心や生き方について考える機会がある」肯定値85%(○)</p> <p>ウ・アンケート(生徒)「授業にふさわしい環境」肯定値87%(○) ・『阿倍高を美しくする会』実施5回(○)</p> <p>エ・「めぐみ」は1年HRで活用(○)</p> <p>ア・アメリカ、オーストラリア、インドネシアとの国際交流3回実施(○)</p> <p>ア・図書館だよりの発行5回(○) ・年間貸し出し数1020冊(△) 図書委員会も協力し、今後も継続的に読書活動の推進を図る。</p>
<p>3 府民に信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1)安全で安心な学校づくりと意欲ある学校生活</p> <p>ア 支援相談委員会の充実</p> <p>イ 生徒支援関連業務の充実</p> <p>ウ 美化関係業務の充実</p> <p>エ 部活動の充実</p> <p>(2)学校運営体制の強化</p> <p>ア 組織力の強化</p>	<p>安全と安心を優先させることを前提におき、生徒満足度の向上を図り、授業と学校行事、生徒支援の各面でより一層生徒の主体性を育み、意欲ある学校生活を促す。</p> <p>ア・SC、SSWの活用を含め、教育相談体制を充実させ、個々の生徒及び家庭環境に対して、寄り添った指導を心がける。 ・支援を求めている生徒に対し、ニーズに合った支援を行うことで、生徒全体の「共に学び、共に育つ」意識を育む。</p> <p>イ・自治会活動において生徒の主体性と自治運営力を向上させ、感染症防止対策を踏まえた体育大会や文化祭等各行事の進化、発展をめざす。 ・遅刻指導を徹底する。 ・安全な通学、特に自転車通学の事故防止のための巡回指導を充実させる。 ・自然災害への防災体制の強化及び防災教育を推進する。</p> <p>ウ・年3回の安全点検を実施し、危険を排除する。 ・清掃が行き届く分担場所の工夫と清掃の確実な実施。 ・生徒自治会を主体にクリーンキャンペーンを実施し、校内美化活動を通して愛校心と仲間意識を育む。</p> <p>エ・大阪府運動部活動の在り方に関する方針の主旨を踏まえ、バランスのとれた部活動を推進する。</p> <p>ア・教職員全体のチーム意識を高めるなど組織力の強化を図る。</p>	<p>ア・アンケート(生徒)の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定値70%以上。 [71%] ・支援相談委員会と支援が必要な生徒、保護者との連携を全教員で共有する機会を学期に1回以上設ける。</p> <p>イ・各行事で生徒アンケートを実施。 生徒満足度90%の維持(体育大会、文化祭) [体育大会91% 文化祭96%] ・遅刻者数→年間1人1.5回以内をめざす。 ・自転車通学生徒の交通法規遵守、マナーの向上。→年間事故件数0をめざす。 [3件] ・災害発生時等、緊急時の生徒の安否確認や連絡確認をメールシステム等で実施できる体制を整え、登録者100%をめざす。</p> <p>ウ・安全点検やアンケートを実施し、問題点は速やかに改善する。保護者からの指摘件数0件をめざす。 ・アンケート(教員)「清掃や設備点検がいきとどいている」の維持。 [84%] ・クリーンキャンペーンへの参加者数300人以上。</p> <p>エ・適切な休養日及び活動時間の設定に基づいた年間計画書の提出。</p> <p>ア・アンケート(教員)「各分掌・学年間の連携が円滑に行われ、各種会議で教員間の意思疎通や意見交換を行い組織的に機能している」の向上。 [71%]</p>	<p>ア・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」肯定値73%(○) ・全教員への共有には至っていない。(△) 支援を要する生徒の指導体制は、支援相談委員会を中心に早期発見・早期対応できたが、次年度は、より全教職員へ情報共有を図る。</p> <p>イ・生徒アンケート生徒満足度90%(○) 体育大会94%(○) 文化祭92%(○) ・年間遅刻者1人1.7回(△) ・自転車年間事故件数11件(△) 自転車事故増加も、遅刻者数も増加し、次年度対応を検討 ・防災対応できるシステム更新。 登録者100%(○)</p> <p>ウ・安全点検を3回実施、問題点は改善、対応できた。 保護者指摘件数0件(○) ・アンケート(教員)「清掃や設備点検がいきとどいている78%(△) 継続的に清掃や点検活動を実施 ・部活動クリーン活動30人(△) コロナ禍で中止となり、一部部活動で実施したが再開できていないので、来年度は実施方向で検討 エ・部活動年間計画書の提出(○) 大阪モデルのペアワーク活動に取組んだ。</p> <p>ア・アンケート(教員)「各分掌・学年間の連携が円滑に行われ、各種会議で教員間の意思疎通や意見交換を行い組織的に機能している」69%(△) 将来構想委員会を設置、連携・意</p>

府立阿倍野高等学校

<p>イ 教員の育成</p> <p>ウ 働き方改革</p> <p>エ 保護者連携</p> <p>(3)開かれた学校づくり</p> <p>ア H.P、メール発信</p> <p>イ 広報</p> <p>ウ 地域交流</p>	<p>イ・オンラインPTによる授業改善研修の実施。</p> <p>ウ・全校一斉退庁日及びノークラブデーの完全実施、長時間労働削減のための業務効率化と意識改革を図る。</p> <p>エ・保護者との意見交換や意思疎通による連携を図る。</p> <p>ア 改新されたホームページ、メールシステムの充実を図る。</p> <p>イ・広報PTを立ち上げ、本校の持つ「落ち着いた環境で学べる」という強みを発信し、志願者数増につなげる。また、早い時期から中学校の情報を集約することで中学校訪問を有効に活用する。</p> <p>ウ・家庭科選択生徒や部活動生徒、有志生徒中心に地域行事やボランティア活動に取り組むことにより地域との交流を深める。</p>	<p>イ・アンケート（教員）「授業方法について検討する機会や経験の少ない教職員をサポートする積極的な体制がある」の向上。 [59%]</p> <p>ウ・安全衛生委員会で月1回検証する。</p> <p>エ・各学年保護者会を1学期に実施する。</p> <p>ア・アンケート（保護者）「H.P、メールで情報提供されている」肯定値の向上。 [84%]</p> <p>・HP更新回数を増加し、年100回更新する。</p> <p>イ・志願者数の維持。 [1.4倍]</p> <p>ウ・地域の方との交流回数のべ25回以上をめざす。 [25回]</p>	<p>思疎通できる組織体制を見直し</p> <p>イ・アンケート(教員)「授業方法について検討する機会や経験の少ない教職員をサポートする積極的な体制がある。」</p> <p>50%(△)</p> <p>授業改善委員会、将来構想委員会と連携し、組織体制の見直し検討</p> <p>ウ・安全衛生委員会は毎月実施し提言を生かす。 (○)</p> <p>より効果的な実施方法を検討</p> <p>エ・各学年とも1学期の保護者会に加え、進路説明会や進路ガイダンスなど進路保護者会が多く実施できた。(◎)</p> <p>ア・「H.P、メールで情報提供されている」肯定値83%(○)</p> <p>指標にはわずかに届かなかったものの、HP更新回数やメール情報発信は大きく伸ばし、高水準を維持。継続して情報発信を続ける。</p> <p>HP更新回数143回(◎)</p> <p>イ・令和5年度志願倍率</p> <p>1.06倍(△)</p> <p>入学者定員1クラス増により、志願倍率は減少したが、多くの志願者数を確保できた。</p> <p>ウ・家庭科部を中心に多くの交流を深めることが出来た。</p> <p>34回(◎)</p>
---	--	--	---